

登録コード:MH403100 開講年度:2026		授業科目区分	専攻専門科目 必修
科目名	基礎作業学実習Ⅰ【20M以降】 Basic activities practiceⅠ		
担当教員	務臺 均 佐賀里 昭・佐藤 正彬・田中 佐千恵		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	作業療法学専攻/1年生 前期 金曜・3時限 金曜・4時限		
単位数、講義室	1単位	保健学科OT実習室 保健学科多目的実習室	遠隔授業科目
信大コンピテンシー	該当		
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素	⇔	授業の達成目標
	MH20カリ・保健		
	保健・医療の専門職者として必要な感性を磨き、基本的知識・技術を獲得して、さまざまな状況で活用できる。	⇔	各作業種目の作品制作を通じて基礎的な技法を習得し説明することができる。
	MH25カリ・保健・作業、MH23カリ・保健・作業		
	≪基礎的・専門的な知識と技能≫保健・医療専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。	⇔	各作業種目の作品制作を通じて作業療法に適用する際の考え方を習得し説明することができる。対象者に接する際の基本的なコミュニケーション技法を習得し実践できる。
授業で学べる「テーマ」	≪科学的探求力≫変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。	⇔	各作業種目の作品制作に際して、創造力を駆使して様々な作品の作成にチャレンジしていく探究心を習得し実践する。
	芸術文化、健康長寿		
全学横断特別教育プログラム			
授業概要	作業療法の治療手段となる基本的な作業活動として、籐細工、マクラメ、室内ゲーム、刺し子、木彫など作品制作を通して体験学習し、各作業の基礎技法を習得する。 対象者に接する際の基本的なコミュニケーション技法を習得する。 本授業は、1年次の「作業療法見学実習」2年次の「作業療法評価学実習」、3年次の「作業療法治療学実習」「地域作業療法学実習」、4年次の「臨床実習Ⅰ」「臨床実習Ⅱ」における重要な基礎知識となります。 本授業は、各担当教員における医療機関や施設における作業療法士としての実務経験や専門家の実務経験を活かして講義・実習を行います。		
授業計画	第1回（4月10日）オリエンテーション（務台）4限のみ 第2回（4月17日）籐細工①（務台） 第3回（4月24日）籐細工②（務台） 第4回（5月 8日）コミュニケーション技法（務台・田中） 第5回（5月15日）マクラメ①（佐賀里） 第6回（5月22日）マクラメ②（佐賀里） 第7回（5月29日）室内ゲーム①（務台） 第8回（6月 5日）室内ゲーム②（務台） 第9回（6月12日）刺し子①（佐藤） 第10回（6月19日）刺し子②（佐藤） 第11回（6月26日）木 彫①（寺下先生） 第12回（7月 3日）木 彫②（寺下先生） 第13回（7月10日）木 彫③（寺下先生） 第14回（7月17日）木 彫④（寺下先生） 第15回（7月24日）コミュニケーション技法実技試験、授業アンケートを実施		
授業の進め方	作業ごとに担当教員や指導者の指示に従って、作品を制作する実習を行う。 原則実習科目は全て出席する必要がある。 和紙工芸、料理は外部の専門講師をお願いしています。 木彫（寺下健太先生）は外部の専門講師をお願いしています。		
テキスト、教材、参考書	テキストや教材は授業の中で紹介する。 参考図書 ・日本作業療法士協会編：作業－その治療的応用－（協同医書出版）		
成績評価の方法	・作業活動の評価（80%）とコミュニケーション技法の評価（20%）についてを行い、その合計を総合評価としてすべての作業が終了後に判定する。 ・各作業の評価は、実習（準備・片付けを含む）に対する取り組む姿勢・態度30%、完成した作品の質70%で評価する。 ・コミュニケーション技法の評価は、実技試験を行い、態度面20%、技能面80%で評価する。実技試験については、授業の中で説明する。 試験日は7月24日、方法は実技試験です。7月31日は講義・試験共にありません。 達成目標の1～3については、授業、作品、実技試験の中で評価します。		
成績評価の基準	総合評価の判定基準は以下の通りとします。 90-100点：秀 80-89点：優 70-79点：良 60-69点：指示された作品が作成でき、準備片付ができ、コミュニケーション技法ができれば「水準にある(可)」，作品のでき栄えがよく、準備片付ができ、コミュニケーション技法が良くできれば「やや上にある（良）」，作品のでき栄えがよく、準備片付ができ、クラスメートへの指導もでき、コミュニケーション		

成績評価の基準	ョン技法がかなりできれば「かなり上にある（優）」，作品のでき栄えが卓越してよく，準備片付もでき，クラスメートへの指導もでき，コミュニケーション技法が卓越していれば「卓越している（秀）」．
事前事後学習の内容	【事前学習】 関連した本や雑誌，インターネット等で実施する作業の作品を見ておくなどしてイメージをつかんでおく． 【事後学習】 授業で教示された方法をテキストや資料を参考に復習しておく． 本授業の単位修得には45時間の学習が必要です．
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	「作業活動」は作業療法の基礎となるものである．集中して実習に取り組み，作品制作を通して，ものを作る「楽しさ」「喜び」を実体験してほしい． 質問や相談は，南校舎2階にいる各教員が随時受け付けますが，教員が対応できない場合には，E-メールでの質問を受け付けます． メールアドレス： 務台：hitmutai@shinshu-u.ac.jp 佐賀里：sagaria@shinshu-u.ac.jp 田中：sachifuk@shinshu-u.ac.jp 佐藤：msato1413@shinshu-u.ac.jp